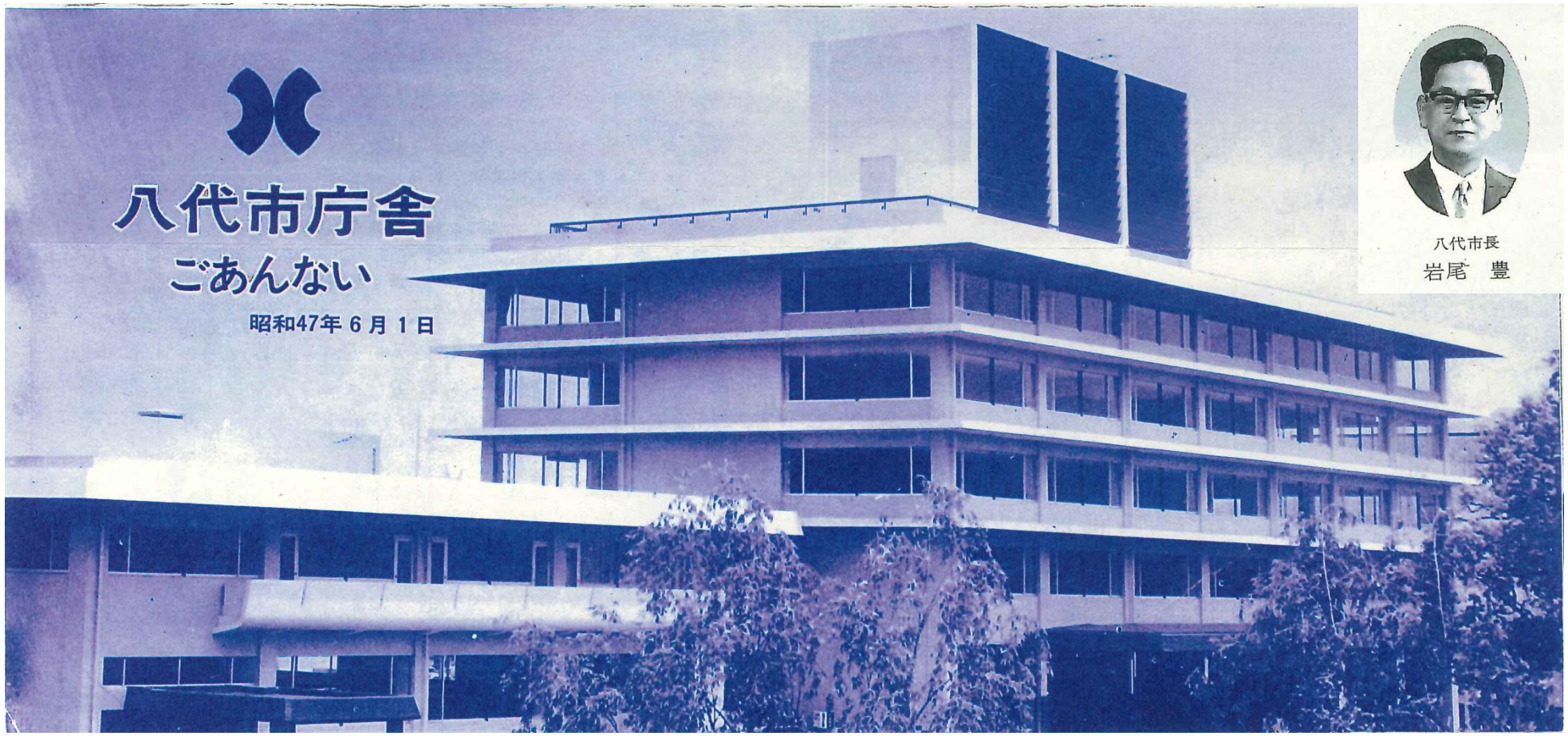
現庁舎の計画〈50年前〉

S45年10月17日起工～S47年6月1日竣工

竣工時の　ごあんない　より抜粋しました。



庁舎の計画

現在　の基本構想（基本計画）
にあたるテーマ。

設計のテーマ　３点

1. 使い易い機能的な平面
2. 周辺環境の整備と調和
3. 市民に親しまれる姿

50年前に考えたテーマ（内容）ですが、
しっかりした庁舎計画で、現在でも使
える内容です。

具体的

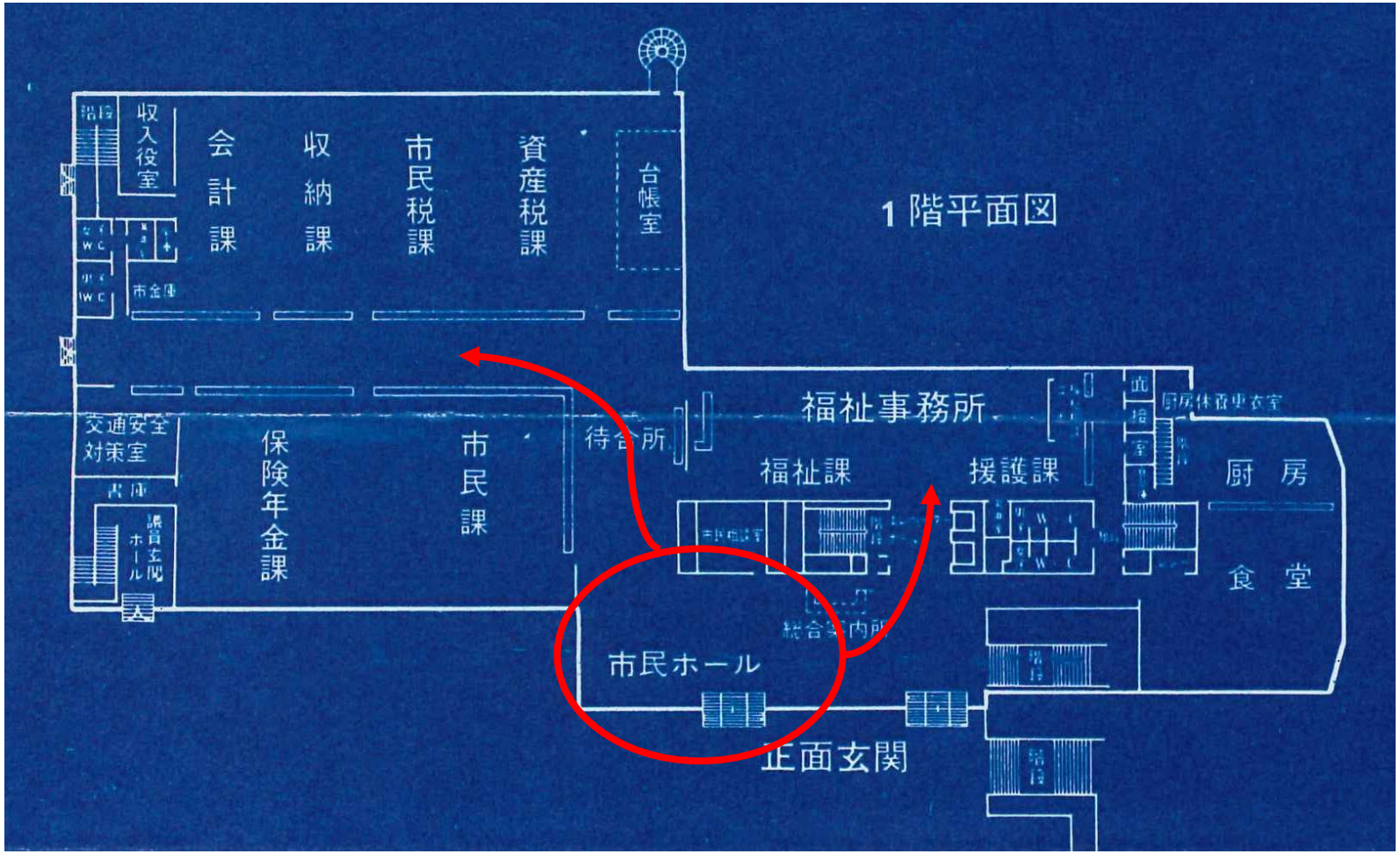
設計はテーマを
具体的にする作
業と言えます。

現在　の基本設計・実施設計にあたる。

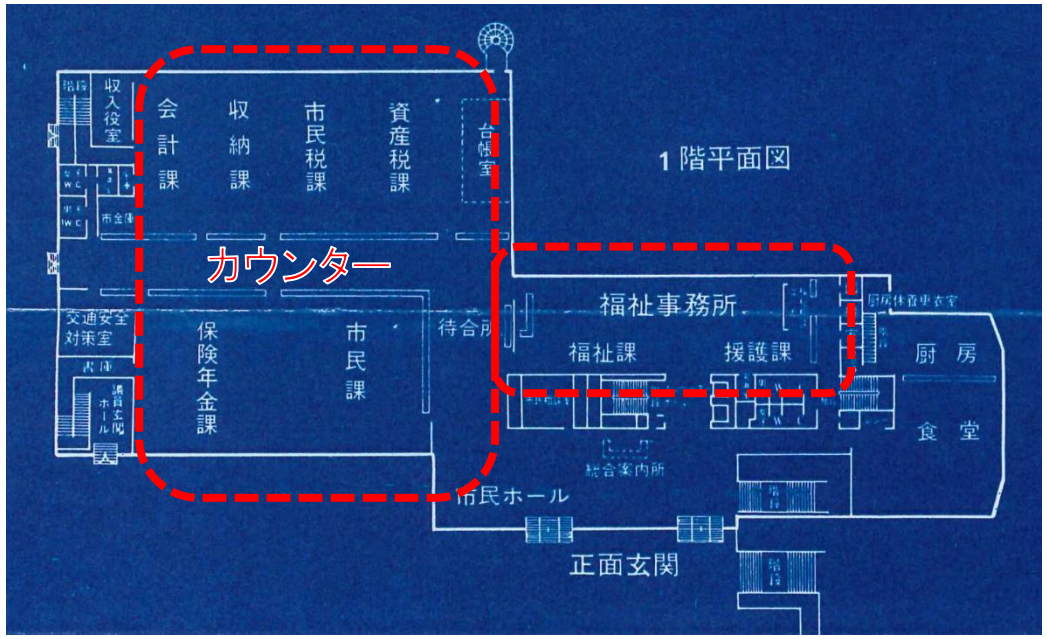
具体的　内容

1. 余裕のある空間を持つ市民ホールを中心として1階に市民関係のスペースをまとめた。
2. 事務室は原則として大部屋形式とし、移動式間仕切壁及びカウンターを使用して部屋を区切り、事務室にフレキシビリティー（融通性）をもたせた。
3. 八代城の石垣高にあわせ、建物の西側を低層に、東側を高層とし、全体的に八代城跡との調和をはかった。
4. 市庁舎南前方に広い前庭、東側に自動車駐車場を配置して、人と車を分離した。
5. 全体に庇を廻らし、建物の保守と火災時の避難、あるいは冷暖房負荷の軽減をはかった。

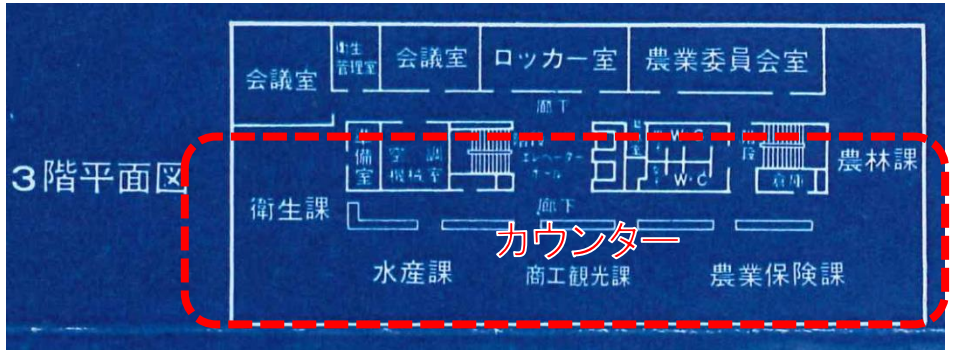
1．余裕のある空間をもつ市民ホールを中心として1階に市民関係のスペースをまとめた。



2. 事務室は原則として大部屋形式とし、移動式間仕切壁及びカウンターを使用して部屋を区切り、事務室にフレキシビリティー（融通性）をもたせた。

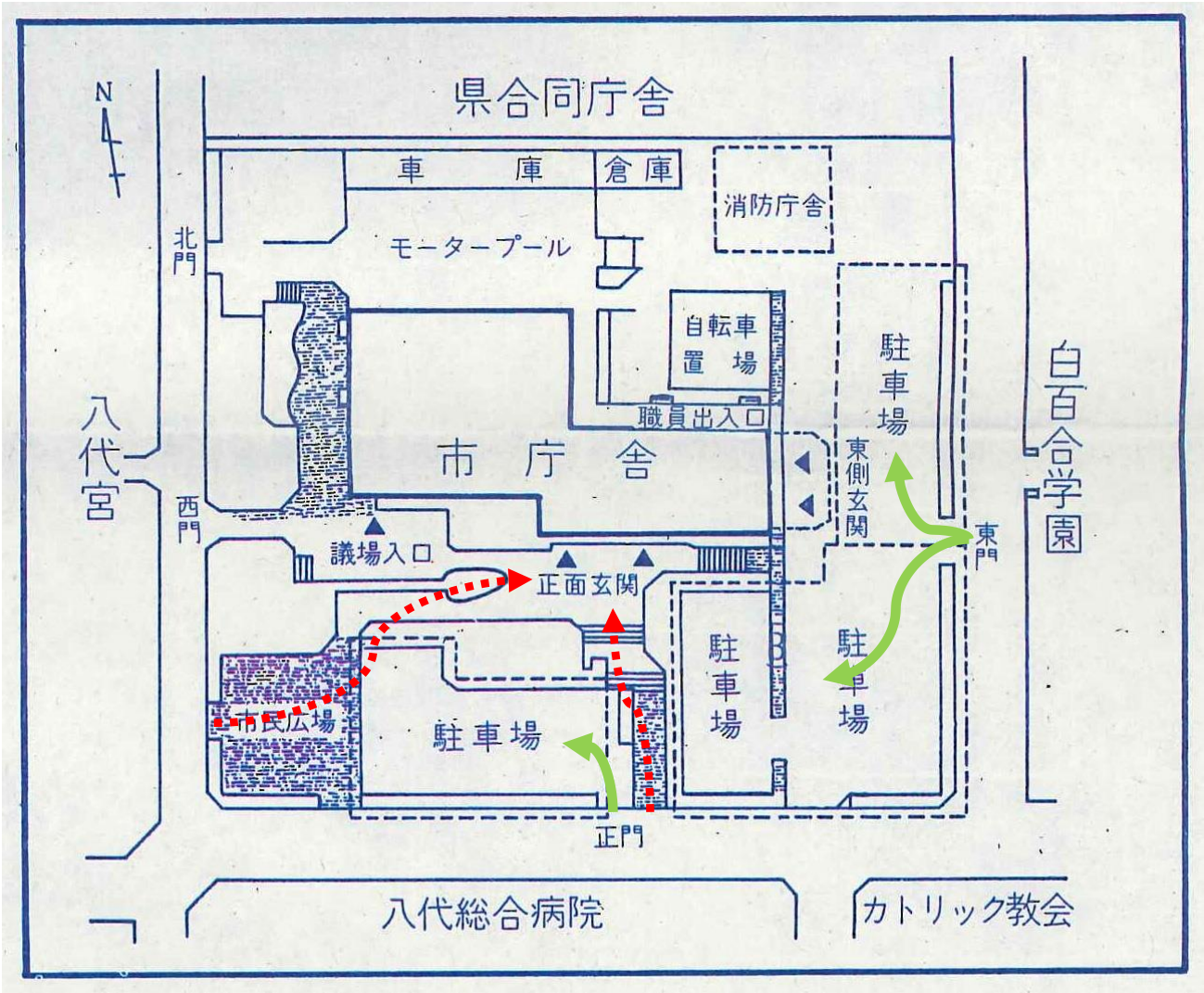


大部屋



３．八代城の石垣高にあわせ、建物の西側を低層に、東側を高層とし、全体的に八代城跡との調和をはかった。

4. 市庁舎南側前方に広い前庭、東側に自動車駐車場を配置して、人（歩行者）と車を分離した。



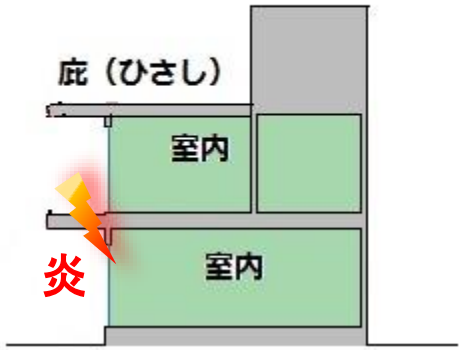
人＝歩行者

車

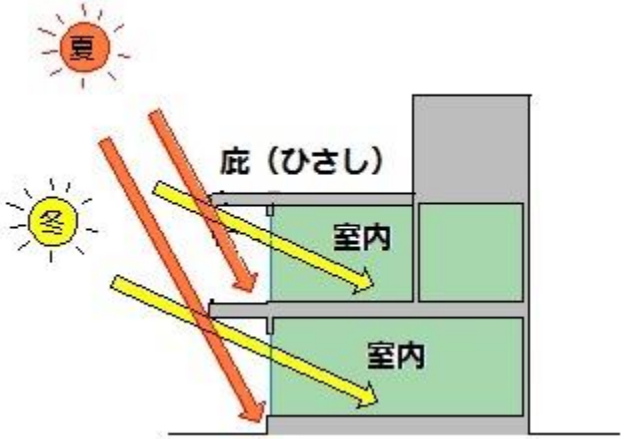
歩行者と車の動きを出来るだけ重ねないことで事故を防止し、安全を考えています。

5. 全体に庇（ひさし）を廻（めぐ）らし、建物の保守と火災時の避難、あるいは冷暖房負荷の軽減をはかった。

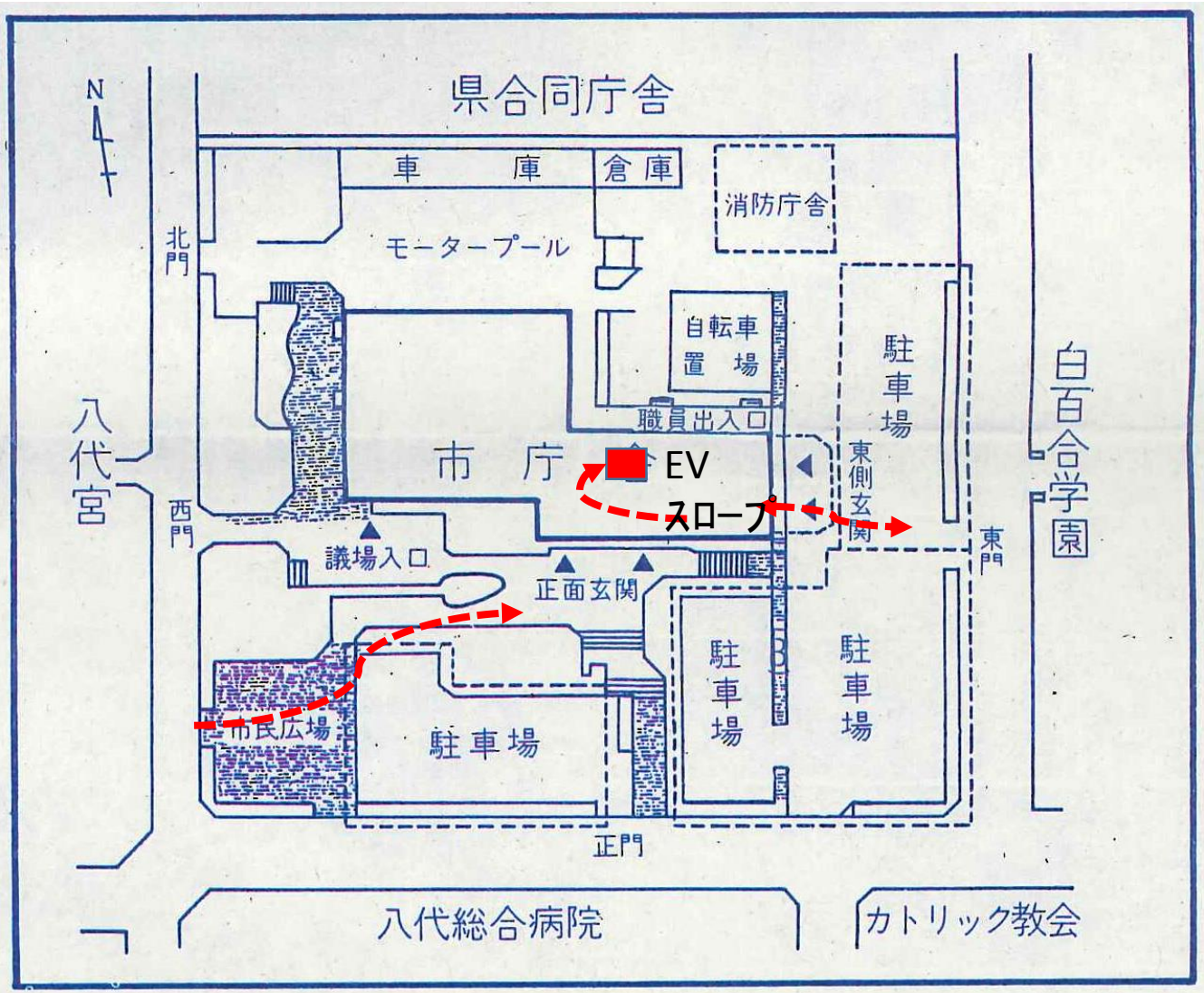
庇（ひさし）で火災を、
さえぎる計画。



日射は室内に
夏に入らず
冬には入る計画。



庁舎のバリアフリー



●車椅子御使用の方々へ

身体障害者の方々で車椅子を御使用になり市役所へお越しになる場合は、西門（八代城側）もしくは市庁舎西南側の市民広場を通って正面玄関からはいっていただく経路と、東門（白百合学園側）を通って東側玄関のなだらかなスロープを下り地階のエレベーターを利用していただく経路とがあります。

坂道を登らないためには、東側入口から入りエレベーターを御利用になり、お帰りには正面玄関から西門へ出られる経路が楽です。

スロープの勾配は、現在の目安では急です。
（車椅子の方だけでは昇り降りしにくいため）

しっかりした内容なのに不便なのは？

市庁舎の基本的なテーマは良いのですが、機能性・快適性・経済性など、庁舎としての融通性が不十分になり、時代に合わなくなっています。

つまり、**機能的耐用年数**　を迎えていると言えます。

・機能的耐用年数とは

建設された構造物が時代の変遷とともに期待される機能を果たせなくなったという耐供用性の観点から算出される耐用年数のこと。

50年前は

現在

50年先は

50？